



秩父農林振興センターだより

第21号 令和4年10月発行

発行 埼玉県秩父農林振興センター

電話 0494(24)7211(代表) FAX 0494(23)8369



埼玉県のマスコット「コバトン」

"オール秩父産"の日本酒 埼玉県ふるさと認証食品に認証

秩父市で江戸時代から続く酒蔵である武甲酒造株式会社が限定醸造した日本酒「武甲正宗 純米大吟醸(ALL 秩父 Project)」が、令和4年6月21日に埼玉県ふるさと認証食品に認証されました。

ALL 秩父 Projectとは、同社と秩父市吉田地区農家の町田一郎氏が連携し、原材料すべてを秩父産とするこだわりの日本酒を作るプロジェクトです。

今回醸造された「武甲正宗 純米大吟醸(ALL 秩父 Project)」も、原料の酒米は町田氏が生産した「山田錦」を、水は平成の名水百選の「武甲山伏流水」を使用しています。

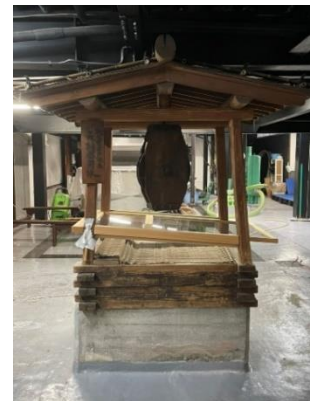
埼玉県では、このように埼玉県産農産物を原料とする加工食品を「ふるさと認証食品」として認証しています。「武甲正宗 純米大吟醸(ALL 秩父 Project)」は、現在認証されている食品の中で、唯一のALL 秩父産の日本酒です(令和4年9月30日現在)。

買って・飲んで・味わって、秩父地域で頑張っている農家やお店を応援しましょう!!

"ALL 秩父産"の日本酒で乾杯!!



武甲正宗 純米大吟醸
(ALL 秩父 Project)



平成の名水百選
武甲山伏流水の井戸

ふるさと認証食品とは？

主原料が全て埼玉県産で、食品添加物を極力使用しないなど、県の品質基準を満たしていることを県が認証した加工食品です。ふるさと認証食品のうち、特別栽培農産物や県育成品種など厳選された農畜産物を主原料としている加工食品を「プレミアム」として認証しています。

ふるさと認証食品に認証されると、専用のマークを表示することができます。商品の差別化やPRにご活用ください。



天敵によるきゅうりの害虫防除実証中！

埼玉ブランド農産物である「秩父きゅうり」は、小鹿野町や秩父市を中心に栽培されており、品質と味の良さから東京都内の市場から高く評価されています。

このような品質の高いきゅうり生産の裏側では害虫との闘いが繰り広げられています。昨今は、葉や果実の吸汁による被害果や樹勢低下のほか、ウイルス病を媒介する害虫であるアザミウマ類やコナジラミ類の発生が問題となっています。

そこで、新しい防除方法として「天敵製剤を活用した害虫防除」を実証しています。天敵製剤とは、農業害虫を対象とし、捕食者と被食者の関係における捕食者を製剤化したものです。対象害虫毎に様々な製剤が販売されています。



天敵製剤を放飼する生産者

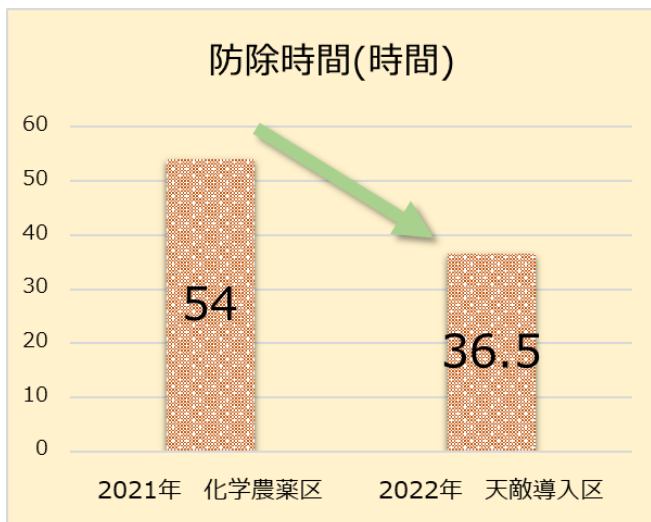
【実証概要】

実証ほ 　： 秩父市きゅうりハウス

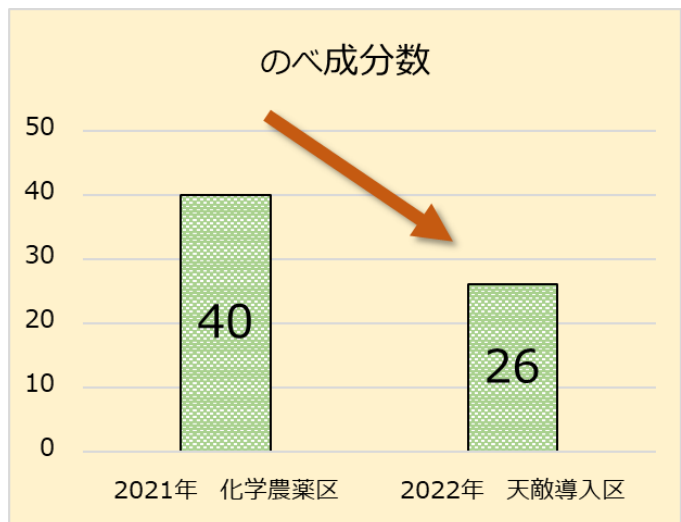
期間 　　： 3月1日（天敵放飼日）～7月5日

供試資材：スワルスキーカブリダニ（75,000頭/10a）

	薬剤コスト	労働コスト	合計コスト
2021年 化学農薬区	61,863	81,000	142,863
2022年 天敵導入区	88,506	54,750	143,256



(グラフ1) 防除時間比較



(グラフ2) 農薬のべ成分数比較

2021年に天敵製剤による防除と化学農薬による防除を行った栽培ほ場を比較したところ、薬剤コストと労働コストを合算した防除コストは同等になりましたが、防除に係る時間、農薬のべ成分数共に約3割削減することができました。環境負荷を軽減した営農実現のためにも実証ほ（生産者）を増やして、秋の抑制栽培でも実証していきます！

1 はじめに～各地区の概要～

秩父市の北部に位置する中太田（なかおおた）地区、小柱（おばしら）地区では、それぞれ営農条件を改善することで、担い手に農地を集積して効率的で安定した農業経営の強化を図っています。

（１）中太田地区

未整備の畑地帯である中太田地区では、かつて養蚕が盛んだった頃に植えられた桑の木などが耕作放棄地となり雑木化、また農家の高齢化・担い手不足に伴い農地の維持が困難でした。農地の利用集積を進めるため、狭小で未整備の農地の区画を整理することにより、排水路と道路を整備し、農地の区画拡大を図りました。

（２）小柱地区

水田を主体とした小柱地区は、昭和 57 年から 61 年度にかけて土地改良事業で整備されましたが、水はけを良くするための暗きょ排水は未施工でした。小柱地区の土質はまるで粘土のようで非常に水はけが悪く、水稻栽培もできない農地があるほどでした。こうした状況を改善し、水田の汎用化（水田以外の利用をすること）を目的として、暗きょ排水工事を施工しました。

2 工法紹介

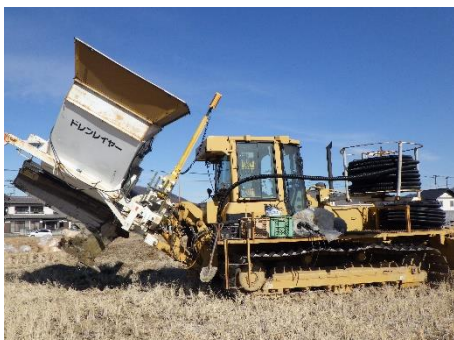
（１）中太田地区 ～ICT技術を活用した整地～

中太田地区では、ICT技術を活用した工法を取り入れました。でこぼこした地区内の地形をドローンで測量し、設計したデータをICT機械に読み込ませて、機械の自動制御により整地を行うものです。ICT技術を導入するメリットとして、施工効率の向上、作業員の安全性向上、施工精度の向上などが挙げられます。



（２）小柱地区 ～ドレンレイヤー工法を活用した暗きょ排水～

今回採用したドレンレイヤー工法とは、農地の切削・管の埋設・疎水材（モミガラ等）投入までを1台の機械で一体的に行う、低コストな暗きょ施工法です。暗きょ排水工事により水の通り道をつくることで、農地が乾きやすく、今後は水田だけでなく畑地としての利用も期待できます。



小鹿野町役場の新庁舎 完成間近！

令和3年10月から工事が始まった小鹿野町役場の新庁舎が、令和4年度中に完成する見込みです。

新庁舎は、町有林から伐り出した約5,500本の木材で作る木造庁舎です。庁舎整備の基本方針の一つに「ふるさとの個性を活かした小鹿野町の活性化に繋がる庁舎」とすることを掲げており、原木の加工は主に地域の製材業者が行いました。木材の大半は森林の健全性を高める間伐で調達し、庁舎の屋根・外壁は高断熱・高気密で電力消費量が小さくなるよう設計するなど、環境に配慮した計画になっています。

令和2年11月14日には工事開始に先立って町有林伐採イベントが行われ、秩父農林振興センターの職員も参加しました。また、公募で集まった16名の一般参加者を対象に、伐採作業の見学やドローンなどを活用したスマート林業を実演しました。建設工事が始まってからも、工事現場見学会が複数回行われており、町内の小学生や地域住民の皆様が参加しています。

小鹿野町産の木で造られる新庁舎は、町の魅力や産業のシンボルとなることはもちろん、秩父地域の豊かな自然・森林資源を再認識するきっかけになるのではないのでしょうか。

近くにお越しの際は、ぜひ一度足を運んでみてください。



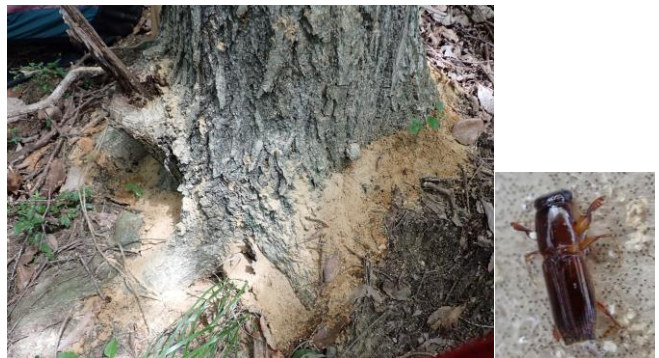
エントランス 完成イメージ

秩父地域の山林で初めてナラ枯れを確認

令和元年に埼玉県南西部において初めてナラ枯れが確認されました。その後、徐々に被害地域が拡大していましたが、令和4年8月、ついに秩父地域においても長瀬町矢那瀬でナラ枯れが確認されました。

ナラ枯れは正式には「ブナ科樹木萎凋病」と言い、体長5mm程度のカシノナガキクイムシがコナラやカシ、ミズナラなどに穿入し、メスがナラ菌を持ち込むことで木が通水障害をおこす病気で、ひどい場合には木が急速に枯れてしまいます。

前年に入った虫が6月頃から秋にかけて脱出して周囲の木に穿入します。



フラスの出したコナラとカシノナガキクイムシ

被害を防ぐには

被害木は冬になってから伐倒し、チップにするか燻蒸処理します。未発生地域に持ち出すことは行わないでください。7月頃から葉が赤く目立ってきたり、枯れていなくても穴からフラス（木くず）が出ているコナラ等を発見した時は秩父農林振興センター林業部にご連絡ください。被害木が増えると処理が難しくなるので、初期段階で対応することが被害の程度を抑え、被害拡大防止につながります。